

メシア初臨預言

□メシアは何のために誰から生まれるのか

連番	預言	成就（➤は再臨預言）
1	女の子孫（創 3 : 15） ● メシアは、女から生まれる人である ● サタンの子孫は、メシアに敵対する ● サタンは、メシアのかかとを打つ ● メシアは、サタンの頭を打つ ● （アダムとエバの理解）ただの人では、サタンに打ち勝つことはできない。メシアは、神が人となって来てくださるお方である。→創 4 : 1 「私は、主を、一人の男子を得た」	● ルカ 2 : 6～7 ➤ II テサ 2 : 8 「不法の人」 ● ヨハネ 13 : 2、27、マタイ 26 : 47、67、27 : 26～31 ● ヘブル 2 : 14 ➤ 黙 20 : 10 ● ヨハネ 5 : 18、6 : 38、ロマ 1 : 4、ピリピ 2 : 6～11
2	アブラハムの子孫（創 22 : 18） ● アブラハムの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる	● ルカ 3 : 34、ガラ 3 : 16、ロマ 1 : 16、エペソ 2 : 11～18
3	ユダの子孫（創 49 : 10） ● 王権はユダから離れず・・・イスラエルの王はユダ族から出る ● ついには彼がシロに来て・・・「シロ」は所有代名詞→正しい訳は「支配権を持つ者が来るまでは」＝メシアが来るまでは ● 諸国の民は彼に従う	● I サム 16 : 13、I 歴 2 : 3、13～15 ● 紀元 70 年にエルサレムの神殿が破壊されたときに、イスラエル民族の戸籍が失われ、誰がユダ族かは不明となった。 ➤ 黙 20 : 4、イザ 2 : 2～4
4	ダビデの子孫（I 歴 17 : 10b～14） ● ダビデの子孫の中から世継ぎの子を起し、彼の王国を確立させる エコンヤ系の除外（エレ 22 : 24～30） ● エコンヤの子孫からはメシアは出ない	● ルカ 3 : 31、ロマ 1 : 3、 ● マタイ 1 : 11、16、18

□メシアはどのようなお方として生まれるのか

連番	預言	成就
5	神の子（詩 2 : 7～12） ● あなた（メシア）はわたし（神）の子	● マタイ 3 : 17
6	神の子の名（箴言 30 : 4） ● 4 節の中の 6 つの質問のうち、5 番目までは答えは明らかである。神、ヤハウエである。しかし 6 番目「その子の名は何か。あなたは知っているのか（誰も知らない）」 ● 「神の子」とはメシア	● 神の子の名が「イエス」であると明らかになるのは、マタイ 1 : 21 ● 今、私たちはその名は知っている。この方の名のほかに救いはないことも。使徒 4 : 12
7	処女から生まれる（イザヤ 7 : 14） ● 主は自ら、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産み、その名を インマヌエル と呼ぶ。 ● 注意 : 15 節の「この子」は、3 節のシェアル・ヤシュブ（イザヤの子）	● マタイ 1 : 18、20～23、ルカ 1 : 26～37
8	ひとりの男の子が与えられる（イザヤ 9 : 6～7） ● ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。 ● その名は、「 不思議な 助言者、力ある 神 、 永遠の父 、 平和の君 」と呼ばれる・・・メシアは人であるが、同時に神である。	● ルカ 2 : 8～14、25～32 ● マタイ 17 : 2、ヨハネ 1 : 14、Ⅱペテロ 1 : 16～17
9	エッサイの根株（イザヤ 11 : 1～2） ● エッサイの根株から新芽が生え→ダビデの家系であるが、没落して貧しい ● その上に主の霊がとどまる	● ルカ 2 : 24、レビ 12 : 8 ● マタイ 3 : 16
10	メシアの名（エレ 23 : 5～6） 神性を示す ● 「 主 は私たちの義」ヤハウエの 4 文字	● ヨハネ 1 : 1、14

□メシアはどのようにして王となるのか

連番	預言	成就
11	メシアの死と復活（詩 16 : 10） ● メシアは死んでその靈魂はシェオル（よみ）に下るが、父なる神はメシアをそこから復活させる。	● マタイ 27 : 62～28 : 15、使徒 2 : 22～32、ロマ 1 : 4、4 : 13～25＝世界の相続人となるという約束と復活との関係・・・復活を信じる者が義と認められ、王国に入る。
12	受難と高揚（詩 22 : 1～31） ● 1～21a ● 21b～27 ● 28～31	● マタイ 27 : 11～50 ● マタイ 28 : 16～20
13	ヤハウエのしもべ（イザヤ 42 : 1～6） ● メシアは、ヤハウエのしもべ ● メシアの上にヤハウエの霊が授けられる ● メシアは争わない。弱い者貧しい者をしいたげることなく、真実をもってさばく。くじけることなく、ついには地にさばきを確立し、島々もその教えを待ち望む。 ● メシアはイスラエルにアブラハム契約を成就させ、国々の光となる。	● マタイ 20 : 28、マルコ 10 : 45、使徒 3 : 13～26、4 : 27～30 ● マルコ 1 : 10 ● マタイ 12 : 9～21 ● 使徒 3 : 25～26、ロマ 4 : 13～25
14	しもべの落胆（イザヤ 49 : 1～6） ● 2 節 メシアとして立つまでは人目から隠される。 ● 4 節 メシアは拒絶される。その働きは無駄な骨折りだったように見える。 ● 6 節 しかし、メシアは国々の光、地の果てまでに（＝異邦人に）救いをもたらす者となる。	● マタイ 13 : 54～56、マルコ 6 : 1～3 ● マタイ 12 : 24、マルコ 3 : 21～22、ルカ 11 : 15、ヨハネ 8 : 48～53、ヨハネ 10 : 19～21、ヨハネ 11 : 47～53、 ● マタイ 28 : 19、使 1 : 8、使 9 : 15、マルコ 16 : 20

15	しもべの訓練 (イザヤ 50 : 4~9) ● 4 節 メシアは少年時代に父なる神から特別な訓練を受ける ● 5 節 メシアの使命 (侮辱され、苦しみを受け、死なねばならない) を理解しても、逆らわず、尻込みもしない。 ● 6 節 実際にそうなったとき、メシアは、打つ者に背中を任せ、侮辱されても唾をかけられても顔を隠さない。 ● 7 節 「自分が恥を見ないことを知っている」 → 「恥ずかしい態度をしてはならないとわきまえている」 = 訓練の結果	● ルカ 2 : 40~52 ● ルカ 3 : 23、マタイ 9 : 15、16 : 21、17 : 22~23、20 : 18~19、20 : 28、26 : 31~32、マルコ 2 : 20、8 : 31、9 : 31、10 : 32~34、45、ルカ 5 : 35、9 : 22、18 : 31~33、ヨハネ 2 : 13~25、3 : 14~15、12 : 27~33、18 : 4~8 ● ヨハネ 18 : 22、ルカ 22 : 63~65、マルコ 14 : 65、マタイ 27 : 26~31、マルコ 15 : 16~20 ● マタイ 26 : 52~54、27 : 12~14、マルコ 15 : 5、ヨハネ 18 : 28~19 : 11
16	しもべの苦難 (イザヤ 52 : 13~53 : 12) 52 : 13~15 苦難の総括 ● 「しもべは栄える」 → (直訳) 「賢くふるまう」 = 訓練されたとおりに神に従って行動する ● 3 ステップの高揚「高められ、上げられ、きわめて高くされる」 ● 苦難を受けて、その顔立ちは損なわれて人の (顔) のようではなくなる = むち打ちの結果 ● 苦難の結果 : メシアの前で諸国の王たちが口をつぐむことになる = メシアの苦難の意味 (目的) を理解する日が来る。	● マタイ 26 : 52~54、27 : 12~14、マルコ 15 : 5、ヨハネ 18 : 28~19 : 11 ● 復活・昇天・神の右の座に着く ● ルカ 23 : 22、ヨハ 19 : 1~5

	53 : 1～12 苦難の詳細 1～3 節 私たち（イスラエル）は聞いたことを、誰も信じない ● 1 節 イスラエルの不信仰・・・「主の御腕」＝メシアは誰なのか ● 2 節 イスラエルの不信仰の理由・・・メシアは貧しい家庭に生まれ、子ども時代は見た目には普通のこどもとして成長する。メシアの容貌は特に人の目を引くものではない。 ● 3 節 メシアは人々から拒否され、苦しみを受ける。 4～6 節 まことに、彼は私たち（イスラエル）の病を追い、私たちの痛みを担った ● 4 節 メシアの苦難は、身代わりで受けるもの。しかし、イスラエルはその意味を理解せず、むしろ神によって罰せられたのだと考えた。 ● 5 節 【大患難期の最後にイスラエルは】メシアの苦難の意味を理解する ● 6 節 そのときのイスラエルの民族的な悔い改めの告白 7～9 節 メシアは痛めつけられ、苦しむが口を開かない 10～12 節 しかし、彼を砕いて、痛めることは、主のみこころであった	● マタイ 13 : 54～56、マルコ 6 : 1～3
17	しもべの使命（イザヤ 61 : 1～2a） ● メシアはその使命のために聖霊によって油注がれる。 ● メシアは預言者として宣教する使命を持つ。	

□メシアはどのようにして来るのか

連番	預言	成就
18	王の先駆者が先に来る（イザヤ 40：3～5、マラキ 3：1）	● マタ 3：1～12、11：7～10
19	王は突然、神殿に来る（マラキ 3：1）	● 紀元 27 年春、ヨハ 2：13～22
20	王はろばの子に乗って来る（ゼカ 9：9～10）	● 紀元 30 年春、マタ 21：1～14

□メシアはいつどこで生まれるのか

連番	預言	成就
21	七十週【7個セット】が 70 ある】（ダニ 9：1～27） ● 7 年が 70 ある ● 「油注がれた者、君主が来るまでが 7 週と 62 週、その間、その苦しみの時代に再び広場と堀が建て直される」→エルサレムを復興し、再建せよとの命令が出てから、メシアが来るまで 483 年 ● メシアは処刑されるが、彼には（罪は）ない ● やがて来る君主（反キリスト）の民が町と聖所を破壊する ● その終わりには「洪水が起こり（大軍が押し寄せる）」、その終わりまで戦いが続いて、荒廃が定められている。 ● 27 節 最後の 70 番目の 1 週、すなわち 7 年間は、大患難期に起きる事	● 預言 イザ 44：28～45：7 ● II 歴 36：22～23、エズ 1 章、発令紀元前 538 年頃、イエス誕生は紀元前 6 または 7 年、その間は約 530 年、ダニエルの預言とは約 50 年の差→世界史において時期が明確なのは紀元前 300 年頃以降、それより前はペルシアの王統記録によるもので 50 年程度の差は生じる可能性あり。私たちは聖書の記事が正確であるとの立場をとる。
22	一つの星が上る（民数記 24：17）	● マタ 2：1～10
23	インマヌエルの約束（イザヤ 8：9～10） ダマスコの王とサマリアの王が組んで、ユダを攻撃しようとした。ユダの王家はダビ	● II 列 16：5～9、17：5～6

	デの子孫。神は、強国アッシリアを用いて、ダビデ王朝が途絶えないようにする。「インマヌエルのゆえに」(8 節、10 節)	
24	ベツレヘムで生まれる (ミカ 5 : 2)	● ルカ 2 : 1~24、マタ 2 : 1~6、ヨハ 7 : 41~42

□メシアに対してイスラエルはどのように対応すべきか、実際はどのようにするか

連番	預言	成就
25	モーセのような預言者が起こされる。イスラエルはその人に聞き従わなければならない (申命記 18 : 15~19)	● ヨハ 1 : 21 「あの預言者ですか」
26	二人の牧者 (ゼカ 11 : 1~17) ● 1~3 節 国土の荒廃に関する預言 ● 4~14 節 真の羊飼いが拒否される→エルサレム陥落・神殿崩壊と離散) ● 15~17 節 偽の羊飼いが現れる→国土の徹底破壊、世界離散)	● メシア拒否・十字架→紀元 70 年エルサレム陥落。神殿崩壊 ● バル・コクバの乱、国土の徹底破壊、ユダヤの地名は「パレスチナ」に改名、世界離散
27	わたしの羊飼いに剣を向かわせる (ゼカ 13 : 7) ● 「剣よ、目覚めよ。わたしの羊飼いに向かい、わたしの仲間に向かえ」→直訳「攻めよ わたしの牧者を その男を わたしと等しい者を」→「男」であるからメシアは人である。「わたしと等しい者」であるからメシアは「神」である。 ● メシアの死は、暴力的な仕打ちを受けることと関係している ● 真の羊飼いであるメシアは打たれ、羊であるイスラエル民族は散らされる→メシアの死は、イスラエルの離散の原因となる	● 紀元 30 年十字架刑、紀元 70 年エルサレム陥落・神殿崩壊・離散 ルカ 19 : 41~44

□メシアはイスラエルに拒否されて、どうするのか

連番	預言	成就
28	天に戻る（ホセア 5 : 15、詩 118 : 26） ● イスラエルがイエスをメシアとして認めるまで、メシアは天に戻っておられる ● イスラエルは、イエスを拒否した後、苦しみながらメシアを捜し求める→世界離散後のユダヤ人	● マタ 23 : 37～39、ヨハ 13 : 1、14 : 1～3「信者のために住む場所を用意する」、使 1 : 9～11
29	右にいる人（詩 80 : 17） ● 詩 80 は、再臨の直前に起きるイスラエルの民族的救いの預言 ● その内容は、イスラエルがメシアに戻って来てくださいと願う祈り ● 17 節は、メシアが父なる神の右に座しておられることを示す。右の座に着くとは、<u>同等である</u>ことを意味する。→メシアは天に上ったあと、神と同等のお方である。	● マコ 14 : 62、ルカ 22 : 69、マコ 16 : 19、使徒 2 : 33～35、5 : 31、7 : 55～56
30	メルキゼデクの位に等しい祭司（詩 110） ● 1～2 節 初臨のメシアは、民の敵対に会う。メシアが 2 節でエルサレムに来たとき、その周りは敵（複数形）だらけである。メシアが拒否されたあとは、父なる神から 1 節「わたしの右の座に着いていなさい」と天に招かれる ● 3 節 敵であったイスラエルの心が変わえられる。「あなたの民（メシアの民）とはイスラエルである。メシアの戦いの日、すなわち再臨のときに彼らは喜んでメシアに仕える ● 4 節では、重要な宣言「メシアは永遠にメルキゼデクの位の祭司となる」	ヘブル 7 : 1～3「メルキゼデクはサレムの王で、いと高き神の祭司でした・・・彼の名は義の王、次に「サレムの王」すなわち「平和の王」です・・・神の子に似た者とされて・・・」 ● ヘブル 7 : 11～18